③協議事項　今年度の発掘調査　陸奥国分寺跡について

国史跡　陸奥国分寺跡　　第 36 次発掘調査

仙台市教育委員会

1．調査要項

調査主体　　仙台市教育委員会文化財課
調査期間　　令和 8 年 6 月 5 日～9 月 1 日（予定）
調査面積　　1 区　約 150 ㎡　2 区　約 103 ㎡
調査公開　　報道発表　　8 月 8 日　10:00～10:45
　　遺跡見学会　　〃　　11:00～12:00
　　市民向け公開　8 月 24・25 日　10:00～15:00



図 1　陸奥国分寺跡調査区配置図

2．調査概要

○1 区(図 2)

建物跡 1

東西 3 間（総長 6.6m)、南北 4 間（総長 12m）の特殊な建物跡である。南面する 1 間分は土廂と見られ建物から向拝状に掛けられていたものと推定される。南から柱の 2 列、3 列間は土間となっており、奥の 3 列から 5 列までは柱痕跡が 2 個あるもの(図 2①~⑦,⑩)が多く、床張りとなっていたと考えられる。南から 2 列目の中央の柱間(図 2⑫と⑬の間)は 300 ㎝と広くなっていること、2 列目から後ろの 3 列目、5 列目の柱跡が南北に 1 直線では通らないことから、南北に長い建物であるが、東西方向が桁行で南北方向が梁行と考えられる。2 列目の中央の柱間に扉が付くものと推定され、南向きの建物跡である。ほとんどの柱痕跡が火災をうけ、焼土が混入している。

床張りで、建物南部には土間も有することから、内陣、外陣を有する仏殿風の建物跡か（図 4)、建物の柱配置から僧房を補完する建物跡と推定される。

○2 区(図 3)

建物跡 2

東西 5 間（総長 15m)、南北 2 間（総長 4.5m）の東西棟建物跡である。柱痕跡の一部に焼土が検出され火災にあったものと考えられる。

国分寺の中心伽藍の北東方向にある建物であることから、関東地方の国分寺、尼寺の調査例から、国分寺に付属する諸院（国師院、政所院、東院）を構成する建物跡である可能性がある(図 5~7)。

3．まとめ

昨年度の第 35 次調査で検出した建物跡の延長部を調査し、2 棟の建物跡の全容を明らかにした。出土遺物などの検証はこれからであるが、いずれの建物も柱堀り方が 1 m を超えることから、律令国家の最盛期につくられた建物跡である可能性を考えたい。特に、1 区の建物跡 1 については、構造上これまでに発見されていない建物跡である。

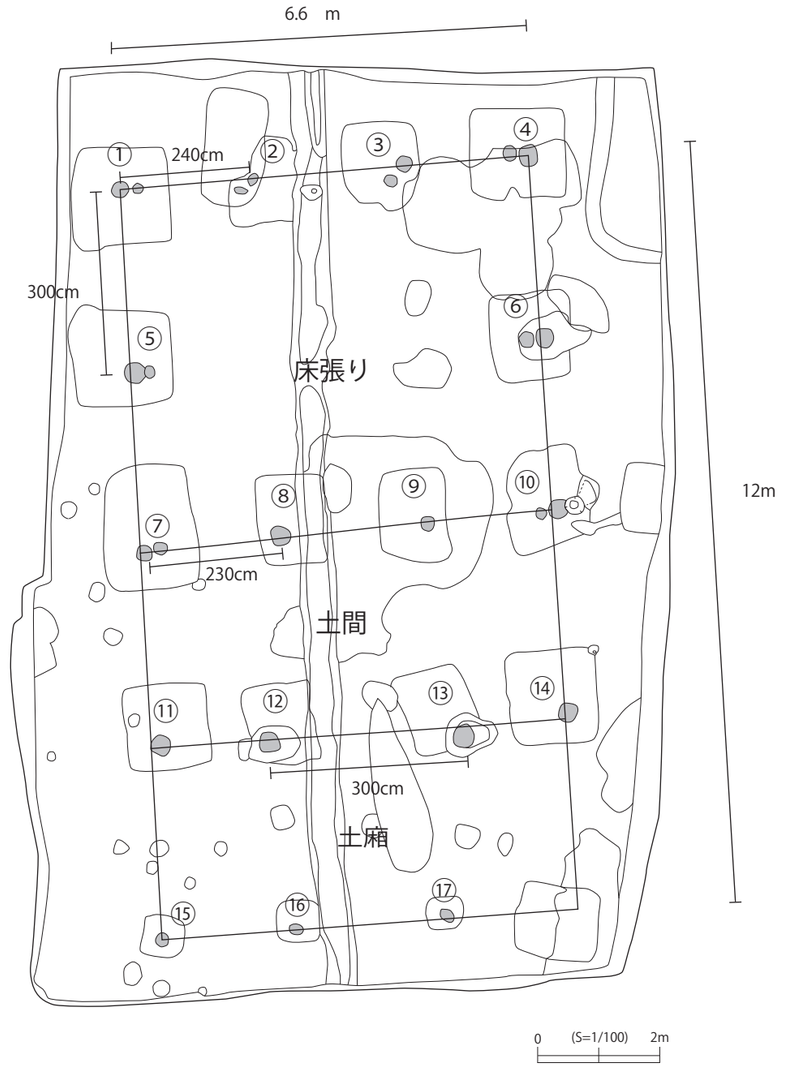
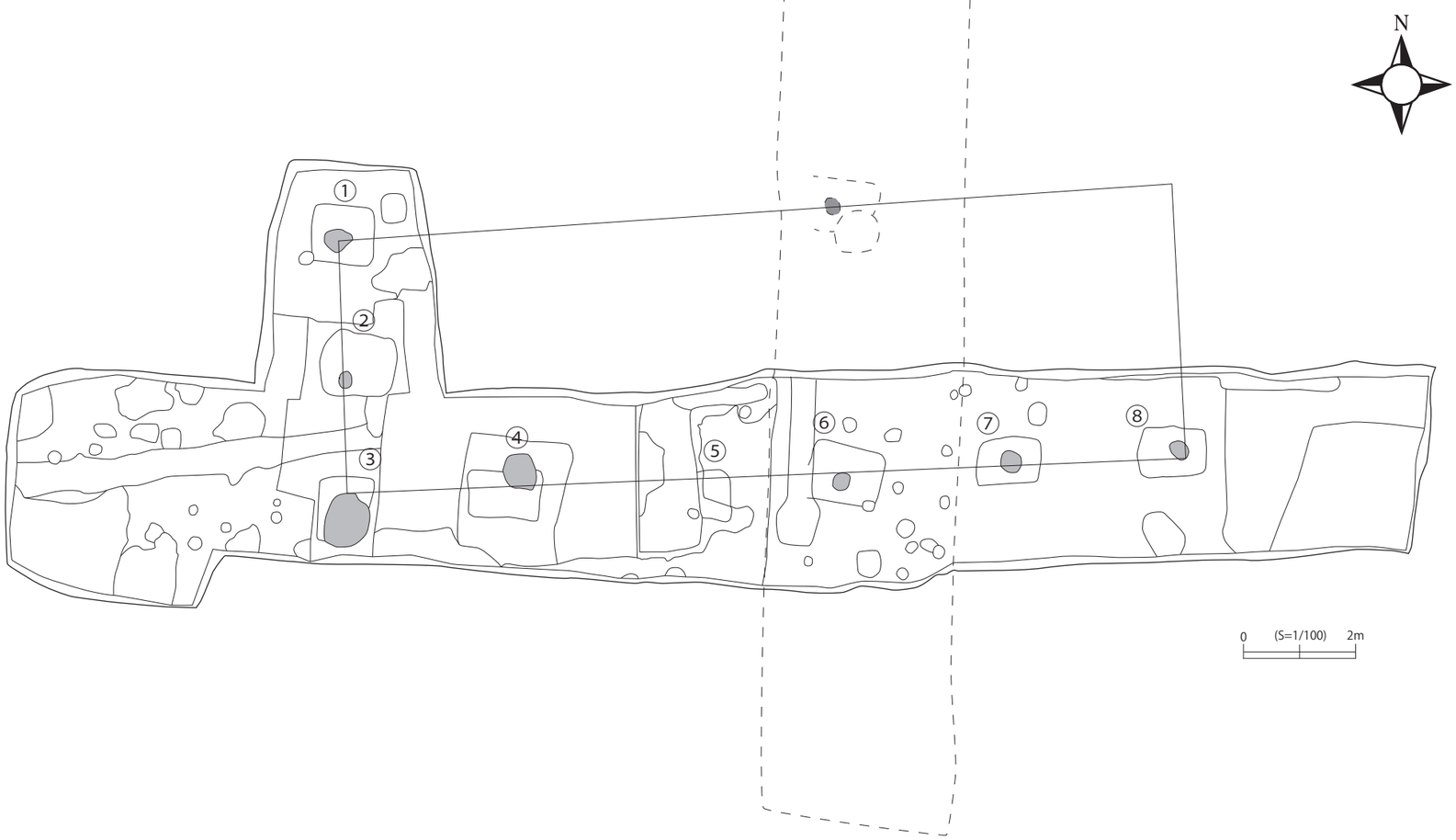


図２　１区平面図



昨年度調査区

図３　２区平面図

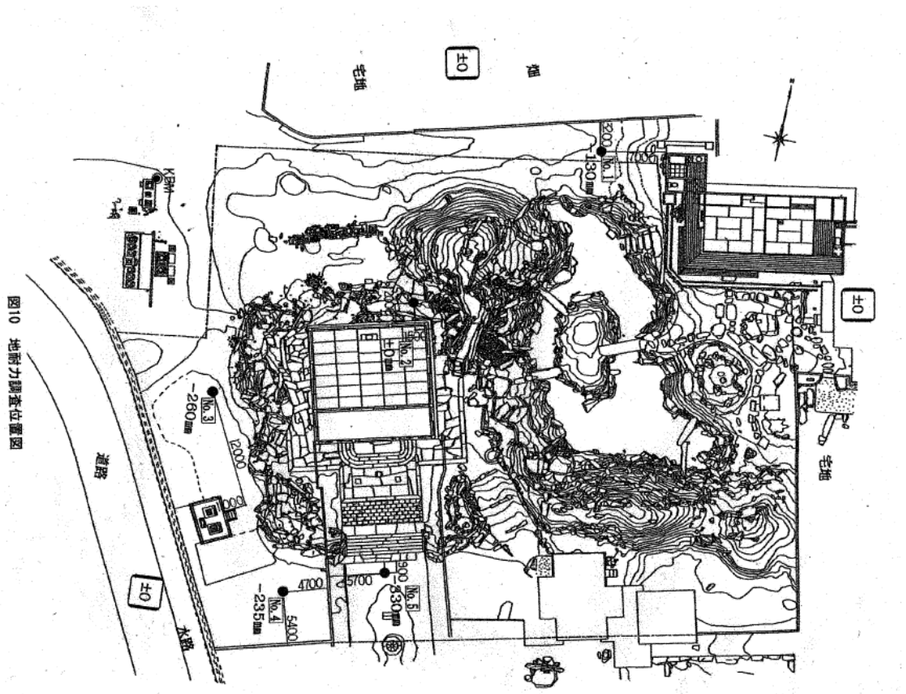


図4 阿波国分寺　本堂

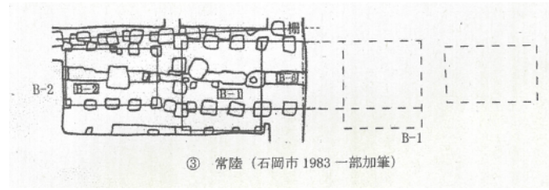


図5 常陸国分寺　僧房関連建物跡

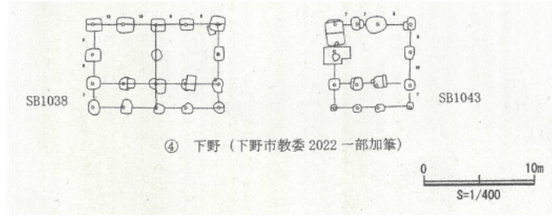


図6 下野国分寺僧房関連建物跡



図7 太宰府　観世音寺　僧房